

加賀市教育振興基本計画(案)パブリックコメントへの回答

No.	頁	項目	意見	回答(案)
1	8	学力の向上	学力調査の正答率と全国平均との差を載せた方が、学習時間や意識調査結果よりも分かりやすく説得力がある。	(1)学力の向上についての部分で、全国との比較を数値で示していませんが、現状として説明しているため、十分理解されるものと考えています。
2	29	豊かな心を育み、健やかな身体と体力の増進に努める	不登校児を減らす取り組みの具体策が「Q-Uテスト」以外にも、青少年育成センターや児童相談所等を盛り込んだらいい。	②生徒指導の充実に、青少年育成センターの教育支援業務や市こども課や児童相談所など関係機関との連携について付記いたします。
3	34	社会的変化に対応した教育環境整備	教師用パソコン実績を100%にするのは、平成28年度では遅い。平成24年度又は25年度中に全教職員に配置してほしい。	平成23年度に各学校で実施した整備調査に基づいて、平成24年度に教師用パソコンの不足分を全て補充するので、整備率は100%となります。そのうえで、毎年、必要に応じてOSを含め機種を更新を行っていくこととしております。平成28年度に100%を達成するのではなく、目標の設定年度が5年後であるため、表記は記載のとおりになるとご理解ください。
4	30	豊かな心を育み、健やかな身体と体力の増進に努める	通級指導教室についても記載するとよいと思います。ことばの教室(錦城東小・山代小)、まなびの教室(片山津小)での指導について。	⑥特別支援教育の充実に、通級指導教室について付記いたします。
5	33	安全・安心な学校施設整備	学校施設ではないですが、校区内の危険箇所看板を立てるなど、子どもの生活環境の安全について整備するための予算をつけていただきたいと思っています。	通学路の安全確保等について関係機関と連携しながら対応する旨、付記いたします。
6	5	教育をめぐる社会変化	少子高齢化が進み、加賀市でも児童生徒数が減少しています。児童生徒はやはり一定の人数がいて切磋琢磨することが大切であると思います。学習においても学び合いが必要であると言われております。複式学級はやはり統廃合していくとよいと思います。	34ページの2.(2)社会的変化に対応した教育環境の整備「施策の展開」①学校の適正規模・適正配置計画の策定で、検討していくこととしております。なお、複式学級の統廃合の具体的な計画等につきましては、今後の検討課題とさせていただきます。
7	8	学力の向上	少子化が進み過保護家庭が増えている一方、放任家庭も増えているように思います。学校では、学力向上のための様々な取り組み(湖北小では、かめノートの取り組み・親子でげんまんカードの取り組み・親子行事等)を通して、保護者に協力を呼びかけています。できるだけ、保護者に児童の家庭教育の大切さに目を向けさせ、児童の教育を家庭と学校が連携して取り組んでいくことができるようにすることも学校の大切な役割と考えています。加賀市からも、小中学生のいる保護者に対して家庭の持つ大切な意義など広めていってほしいと思います。	38ページの3.(1)学校から家庭、地域への働きかけで、家庭や地域との連携の必要性や施策としての展開を記載しております。ご指摘いただいたことは、加賀市及び加賀市教育委員会からも発信していかなければならないことと理解しております。
8	31	教職員の資質向上	教職員研修について、いろいろと工夫されていると感じています。学校でも、全教職員の資質がアップするように独自の研修を計画し実施しています。加賀市でも児童の学力向上のため、能美市のような全学校を視野につながり考えた研修の取り組みがあったらいいなと思います。	本教育振興基本計画(案)では、具体的な研修の実施方法等について述べませんが、基本計画の策定後に、市内の小中学校の持つ課題の解決と教職員のニーズを意識して、計画的な教職員研修会を実施していきます。

加賀市教育振興基本計画(案)パブリックコメントへの回答

No.	頁	項目	意見	回答(案)
9	42	自然や文化を活用した自然体験学習の充実	緑の体験学習は大変良い取り組みですが、学校の子も達が全員安全に取り組むための施設の充実が必要だと思います。小松市や能美市や白山市等には、山の生活体験ができる施設があります。加賀市からも、大人数の学校は、他市へ行っている現状です。加賀市には、海や山を体験できるような施設をもっと整備してほしいと思います。必要な道具を学校から持って行ったり、雨が降った時の避難の場所を心配したりしなくてもよく、他市からも合宿に希望されるような施設をお願いします。また、市民が子ども会の合宿等で使用できるような施設にもなればよいと思います。	本市の豊かな自然を活用する自然体験学習施設の必要性は認知しており、本教育振興基本計画(案)の本文に文言を盛り込んでいます。(P30・P42)今後、施設の場所や内容、規模等につきまして検討を重ね、将来的には、自然体験活動の拠点施設の整備を行いたいと考えております。
10	28	読書活動の推進	読書活動推進のために司書の果たす役割は非常に大きいと思います。楽しい図書室を作り上げるためにも、子どもたちと司書が交流することができるようなシステムが必要ではないかと思います。例えば給食で子どもたちと会食するとか、給食の準備を手伝うとか、掃除の時間の指導を行うなどです。	本教育振興基本計画(案)では、図書館司書の具体的な職務内容について述べませんが、教育現場における図書館司書の具体的な職務として参考にさせていただきます。
11	30	特別支援教育の充実	平穏と考えられる学校でも、複雑な家庭環境の子どもや特別な配慮が必要な子どもたちが在籍していると思います。学校全体が子どもたちのことを温かく見守ることができるよう、先生方だけではなく、学校の全職員が情報を共有することができるようなシステムが必要ではないかと思います。勤務時間の面で難しい部分もあるとは思いますが。	⑥特別支援教育の充実で、発達障害に対する教職員の理解を深めることや通常学級において支援の必要な児童生徒へのきめ細かい対応について述べておりますが、基本計画の策定後に、加賀市教育委員会と加賀市校長会が作成したリーフレット「いつでも・だれでも・どこでも 特別支援教育を!」などを使い、特別支援教育について、とりわけ通常学級における発達障害のある児童・生徒に関する研修を加賀市教育委員会や学校内において実施していきます。
12	32	ふるさと加賀市の伝統・文化に親しみ、郷土を愛する心を育てる	郷土の偉人を紹介した冊子(絵本のようなもので小学校低学年が読むことができるようなものが良いと思います。低学年で知る方が記憶に残って効果的だと思います。)を作って、学校の図書室に置いておくことができないでしょうか。昔、「子ども加賀市史」という本がつくられ、学校の図書室に置いてありますが、このような形で取り組むことはできないでしょうか。原稿の執筆や絵の挿入など簡単ではないと思いますが、教員OBで適任の方がおられないでしょうか。	本教育振興基本計画(案)では、郷土の偉人を紹介した冊子を作成するなどの具体的な事業について述べませんが、基本計画の策定後に、教育研究所で具体化できるよう今後検討してまいります。
13	8 ～	加賀市の教育の現状と課題	「市共通項目のアンケート結果」の公表とその活用 今回、共通項目のアンケート結果が基本計画に載せられている。毎年行っているアンケートなので、結果も継続的に公表し、各学校の取組に生かす。	加賀市の教育の現状と課題を記述する部分であるので活用については述べませんが、アンケート結果は各学校において有効に使うこととし、地域にも発信していくよう指導してまいります。

加賀市教育振興基本計画(案)パブリックコメントへの回答

No.	頁	項目	意見	回答(案)
14	27	授業改善に向けた取り組み	市全体として同じ方向性で進める授業改善 授業改善の取組は、学校ごとにバラバラではいけない。もちろん各学校の特色は尊重しなければならないが、基本的な方向性は同じでなければならない。そのためにまず、学校研究の拠点校をつくる必要がある。国語なら〇〇校、算数なら△△校という具合に。主要教科の研究はその拠点学校を中心に進めることが、結果として市全体の授業改善につながる。近隣校の研究會に気軽に参加できるシステムづくりが必要。そのためには研究會情報の共有と、勤務態様の柔軟な適用が必要。	市全体として同じ方向性で授業改善を進めることは当然であり、本教育振興基本計画(案)では、その全般的な取り組みを述べております。基本計画の策定後に、教職員の授業力向上のため、勤務態様は学校と加賀市教育委員会とが連携して、研究會にお互いに参加できるようにしていきます。
15	30	特別支援教育の充実	支援員の充実 私の勤務校では、お二人の特別支援員を配置していただいている。この存在が、児童の学力保障にとって大変大きな役割を果たしている。本校では、一昨年、昨年と入学時に就学相談を受けた児童が複数在籍している。また、各学年にもそれぞれ特別に支援を必要とする児童が在籍している。このような状況の中、特に教科の学習では支援員を生かした個別の対応をとることで、なんとか学習内容の定着を図っている状況である。支援員の存在は大変ありがたく、貴重である。すべての学校で今後さらに必要性が高まると予想されるので、市全体として児童生徒の学力保障のためにもさらなる支援員の配置が望まれる。	特別支援教育の充実の必要性につきましては十分認識しており、本教育振興基本計画(案)において、特別支援教育支援員の配置を充実していきますと記述してあります。特別教育支援員の充実につきましては、特別支援教育支援員の増員及び資質の向上を含めた検討を行ってまいります。
16	42	自然や文化を活用した自然体験学習の充実	自然体験学習を進めるための施設と指導者の充実 山から海まで豊かな自然に恵まれた加賀市、本当にその通りである。わずか20kmほどの間に山岳地帯から海岸まで体感できる市はそれほど多くない。すべての小学校で泊を伴った体験を可能にするためにも、それができる施設と指導者の充実が不可欠である。	本市の豊かな自然を活用する自然体験学習施設の整備や、指導者の養成、活動実施団体の育成等の必要性は認知しており、本教育振興基本計画の本文に文言を盛り込んでいます。(P30・P42)
17	27 ～	基本目標の達成に向けた取り組み	28年度に向けた数値目標の公表 今回、教育改善に向けた数値目標を明確に示されている。教育振興に真剣に取り組む姿勢を示すものとして、市民からも評価をいただけるものと思われる。同時に教育現場で働くものとして、身の引き締まる思いを感じている。また、「学校行事に進んで参加する保護者100%」の目標について、地域や保護者を信頼し、学校と協力して児童生徒を育てようとする強い思いが感じられ、学校でのPTA活動をより有意義なものにしていきたい、と感じている。	学校現場での取り組みについての意気込みとして、ありがたく感じております。今後は、各学校でも取り組んでいただけるよう、本市の教育振興のため教育改善に向けた数値目標を公表していくとともに、達成に向けて努力していくことといたします。

加賀市教育振興基本計画(案)パブリックコメントへの回答

No.	頁	項目	意見	回答(案)
18		全般的に	加賀市教育全般にわたって今後十年間の教育の根幹を成す「教育振興計画」は現状と課題を明確にされて、その個々の課題について目標と取り組みを具体的に載せられていることに対して、委員各位のご努力に改めて敬意を表します。これからは、この計画に基づいて具体的な施策が講じられると思いますが、5年に一度の見直しではなくて、短期にどのくらい進捗できるのかその進捗スケジュールを明示した方が良いと思います。	加賀市教育振興基本計画が策定されれば、基本目標の達成に向けた取り組みを行うことは当然として、教育施策の点検と評価に記載したとおり、毎年、教育施策の点検と評価を行い、その評価結果を基に、教育施策の改善や見直しを行っていきます。ただし、基本計画の見直しについては、前述の点検と評価を基に、5年後に見直すこととしております。
19		全般的に	個々の内容について一部数値目標を明示してあることはとても素晴らしいですが、その方策が明らかではないので、数値目標が真に生きた目標値になっているのか、やや疑問を感じます。	数値目標の算出・設定の根拠は、本教育振興基本計画(案)には明記されておりませんが、数値目標の設定にあたっては、現状及び予想される要因を十分に分析したうえで定めたものであります。
20		全般的に	各目標の達成については予算の重点配分が必要だと考えます。例えば各学校においては県立学校や他市でも行っているように各目標達成のために特別予算を組み、コンペ方式でその具体策を各学校で考えて貰うといった方法で目標達成に到達する。といった各校の個性を重視し、自主性を尊重するといったやり方も良いのではないかと思います。	本教育振興基本計画(案)では、現状と課題を把握したうえで基本理念を定め、基本目標を達成するための取り組みを示したものであります。この取り組みに基づき教育施策を実施していくものであり、基本計画の策定後に予算を計上していくこととなります。コンペ方式での目標達成に向けた予算化は、策定後の課題とさせていただきます。
21	29	キャリア教育の取組	小学校では、現在勤労体験学習が中心ですが、一番大切なことは各職業をしている人との出逢いだと考えます。しかし現実的には、なかなかその道の職業について子ども達に語ってくれる方は少ないものです。キャリア教育の充実を図るためには子ども達に、仕事の素晴らしさを語ってくれる「語り部マイスター」が必要です。是非そのような方がわかるようなリストづくりなども行っていただけると学校現場としては大変助かります。目標6(4)⑤にも関連して「語り部人材リスト」を作っていただきたいと思っております。	小学校でのキャリア教育の課題としてのご意見として、参考とさせていただきます。ご指摘の件につきましては、本教育振興基本計画(案)32ページの目標1(4)④地域教材の発掘に記述してある、施策の展開の具体化で検討していきます。また、本教育振興基本計画(案)55ページの目標6(4)⑤加賀市らしさを継承する担い手の育成に記述してある、後継者を育成する仕組みを創出します、の具体化としても検討していきます。
22	32	郷土の伝統・文化施設を利用した学習の推進	小学校では現在の3館だけではなく、他館を利用するプログラム作りが必要だと書かれていることは同感です。また、展観施設ばかりではなく、山(東谷)と海(橋立)の重伝建地区や大聖寺藩の史跡が残っている大聖寺地区の学習も必須でしょう。目標6(1)③や(4)②とも関連しますが、啓発冊子や体験メニューを具体化して、総合的な学習の時間が始まる3年生から高校生までに「ふるさと学習」を推進して、世界に誇れる加賀市を意識付けするためにも、その活動の中心テーマとして位置づけできるようなプログラム作りが急務です。	本教育振興基本計画(案)に記述してある施策の展開において、ご指摘のあったことも含め、基本計画の策定後、目標1(4)①を具体化していく中で、教育委員会事務局内が連携して検討していきます。

加賀市教育振興基本計画(案)パブリックコメントへの回答

No.	頁	項目	意見	回答(案)
23	33	学校防災対策の推進	各校の立地条件にも密接に関係しますが、地域の防災拠点としての各学校に役割について、きちんとしたマニュアル作りが急がれます。現在ではどのような災害が起きても、どのように避難場所として機能させるのか、その手順について周知されていません。(5)⑤とも関連して防災対策室が中心となって、各避難場所としての大まかなガイドラインを作成していただきたいと思えます。それを受けて各学校で個別のガイドラインを作成すべきだと考えます。	地域防災の拠点施設として学校は重要な役割を担うことから、学校関係者等との協議を場を持ち意見を取り入れて、避難場所としてのガイドラインを作成するよう、防災担当部署に働きかけていきます。
24	33	学校防災対策の推進	市独自では備蓄の予算は出しにくい状況だと推察されますので、教育後援会等の予算を活用して市内全域に流通備蓄が廻ってくる迄の間に1～2日程度の食糧等が確保できるように全校に指示しては如何でしょうか。本校では災害備蓄室を設けてテントや給食でいらなくなった食器や寝袋等について備蓄し、食糧と水は5ヵ年計画で地域住民と教職員が一日程度生き延びることができ1,500人分の備蓄を開始しました。	災害に対する物資の備蓄については、予算を含めて、災害担当部署の指示によることとなります。市内流通業者との物資調達に関する協定も結んでいることから、教育後援会予算での食糧備蓄等の指示は考えておりません。
25	33	学校防災対策の推進	津波について沿岸部は海拔標示を開始しましたが、本校は大聖寺川が目の前にあり。津波に対しては校舎の屋上避難ができません。(避難場所スペースがない。)そこでバイパス向こうの山や中央公園を避難地として考えていますが、各校の施設の実情を早急に調査して非常用電源の設置や災害に応じた避難場所についての変更等についての具体的な対策が必要だと考えます。そのためには、現在の3人しかいない防災対策室では、やや心もとないので対策室の充実を是非図り、早急に市独自のハザードマップや総合対策が望まれます。市長部局と連携して早急に適切な指示と対策ができるような体制づくりが必要です。	防災については、防災対策室を中心として担当部署である総務課、総務部をはじめとして関係機関で対応していくものでありますが、市長部局のみで対応を決定するものではありません。避難場所の設定など災害への対応策の策定につきましては、学校としても積極的に参画していただきたいと考えます。
26	34	学校の適正規模・適正配置計画の策定	県下一多の複式学級数の現状を鑑みて、子ども同士が切磋琢磨できる環境が急がれます。学校の統廃合については地域住民との充分なる話し合いが必要ですが、保護者の中には、現在でも切磋琢磨できる環境を求めて、校区外の学校に入学している事例が多々あります。今後ますます急速に少子化が進行してくる状況において、適正規模の学校づくりは、子ども達のみならず教職員にとっても喫緊の課題だと考えます。教育委員会は廃校舎の利用も含めて、早急に統廃合の計画づくりに着手すべきだと思います。	指摘されました複式学級数の現状につきましては認識しており、本教育振興基本計画(案)に記述したとおり、将来の子どもたちの教育を見据えた、学校の適正規模・適正配置、また、それに伴う通学区・通学方法についても合わせて検討いたします。